

◆司会

ただ今から市長記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いします。

◆市長

まずは速報を申し上げます。残念ながら病院でのクラスターの発生が、今朝、確認されました。病院名は静岡徳洲会病院であります。現在、情報収集中でございますので、詳細につきましては16時からの会見で発表いたします。その際、市の職員が立ち会って、静岡徳洲会病院のスタッフが会見を行います。現在、現場は大変混乱をきたしておりますので、どうぞ取材についてはご容赦いただけるよう、お願い申し上げます。

今回、いち早く病院名を公表しましたが、改めて誹謗中傷が起こることのないよう、報道関係の皆さまをはじめ市民の皆さまには今一度ご理解をお願いいたします。先日、クラスター発生に伴う企業名を公表いたしました。感染した従業員とは他の部署の従業員のご家族が介護施設の利用を拒否されるといった事例の報告もきております。非常に残念です。ご協力いただいて公表に踏み切った企業に対して、大変心苦しく思っております。こうした事業者を守っていくためにも、先日の会見でも述べましたが、新型コロナウイルスに立ち向かうシンボルとして、現在、活用している二つのLifeを守る、わたしのため、あなたのため、そして、みんなのためと、このロゴを活用して誹謗中傷対策を市として強化していきたいと思っております。それぞれの対策をスピードアップします。議会で表明しましたけれども、今、私が付けているこの試供品ですけれども、新しいこのバッジですね、誹謗中傷をやめようという思いも込められた新しいバッジを、市内の小学校、中学校、高等学校、約7万校、年内には配布開始を予定するところまで、目処がつかしました。学校の中で、あるいはご家庭で、広く差別だとかお互いさまだということについて考えていただくための素材としても活用していただきたいと思っております。そして、このバッジを付けている市民の皆さんは周りの人への思いやりを持った行動を意識づけていただきたいと願っております。これは人権を守るということも大事であります。自分を守ると同時に相手の方も守る、自己を守るとともに、利他の精神といふかな、そういった心を持つのが日本人として大事じゃないかということでもあります。その一環として、15日の日に、清水区のと田島こども園で園児の子どもたち、職員の指導のもと、ロゴマークの入った啓発バッジを作るという取り組みを行っていきます。お子さんと親御さん、保護者の皆さんが人権について、初めて一緒に考えてみるきっかけになればなというふうに願っております。

さらに静岡市役所では、三つの区役所に掲示する横断幕、あるいは毎日の同報無線、今、「うがいをしましょう」とか、「マスクをしましょう」とかいうことを伝えていますが、けれども、「誹謗中傷はやめよう」というメッセージに切り替えて、伝えていきたいと

いうふうに思っています。また、実際誹謗中傷を受けていて非常に困っているという市民の皆さんに対しては、新型コロナなんでも相談ダイヤル、これはもう、ずっと受け付けているわけですが、この相談ダイヤル、なんでも相談ダイヤルで誹謗中傷を受けている方の相談もお受けいたしますので、ご活用いただきたいと思います。

今後も、誹謗中傷はやめようという啓発活動も大事でありますけども、起こってしまったら、どうそれを守っていくのかという施策を立案し、そして、市民の、お互いさまという社会環境を作っていきたいと思っています。それがSDGs未来都市の責務だと思っています。まさに、SDGsという考え方も、今の地球、今の自分さえ良ければいいのではなくて、2030年の地球に思いをはせて、その人たちのために、今、行動しようというメッセージであります。そういった意味でも、新型コロナウイルス感染に関わる差別中傷が、SDGsの理念の上からも「誰ひとり取り残さない」という考え方も、あってはならないことだというふうに思います。

そういった観点から、今年3年目を迎えますけれども、SDGsシーズンが始まります。もう始まっています。そのことをPRするための広報誌が出来上がりました。去年のもの、一昨年のも、ウィーク、マンス、シーズンときていますけれども、すべて記者の皆さんのところには配付しているということになっておりますので、見比べて見ていただければうれしいなと思います。どんどん進化していると思っています。この、今回の広報誌では、SDGsを今一度、中身も含めて一から学んでいただけるような構成を意識しておりますし、また、この紙は環境に優しい紙とインクを使用して製作しております。

最大のポイントは、広げてみると1枚のポスターのようになるんですね、これが。SDGsの目標12、「つかう責任、つくる責任」を意識し、これ、自分が読み終わった後でもどこかに掲示してもらって、ご家庭でも、学校でも、職場でも掲示していただいて、いろんな方々の目に触れるように使い続けていただけるような工夫をしております。この広報誌は、各区役所や図書館などの公共施設に配架するとともに、大学といった教育機関やSDGsを宣言してくださっている企業の事業所にもお配りをいたしますし、市の公式ホームページ上からもダウンロードいただけます。できるだけ多くの市民の皆さんに手に取っていただき、SDGsに理解を深めていただき、このwithコロナの時代を暮らしてほしいし、報道機関の皆さまには、ぜひこのPRのお力添えをお願い申し上げます。

今一度、誹謗中傷はいけないんだと、絶対やめていただきたいということを市民の皆さんにお願いをいたします。私からは以上です。

◆司会

それでは、ただ今の報告につきまして皆さまからのご質問をお受けします。テレビ静岡さん、お願いします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。先ほどおっしゃっていた徳洲会病院でのクラスターについてお聞きしたいんですけども、これは先ほど本日の感染者メールでいただいた、16例目のクラスターと同一のものでしょうか。

◆保健福祉長寿局長

はい、先ほど報告させていただいた16例目のクラスターになります。

◆テレビ静岡

午後4時から病院側と市が合同で会見ということで…

◆保健福祉長寿局長

はい。

◆テレビ静岡

それ以上、人数とかはその時、というかたちですか。

◆保健福祉長寿局長

はい。現在調査中になっておりますので、それまでお待ちください。

◆テレビ静岡

承知いたしました。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。第一テレビさん、お願いいたします。

◆第一テレビ

第一テレビです。お願いいたします。店名公表の誹謗中傷の問題で、公表はこれから積極的に市が行う中で、こうした誹謗中傷は今後も増えてくる問題だと思います。呼びかけ以外に、バッジのこともありましたけれども、例えば職員の家族の方が通院だったりとか、通園、学校に行くということを拒否されたりという、そういう問題があると思うんですけども、でも感染者との接触がどれだけだったらそういったことも仕方がないなど、誹謗中傷にはあたらないものなのかなどのガイドライン的なものがあったらいいのではないかと思ったりするんですけども、そうしたガイドラインだったりとか家族へのサポート、一人ひとりの、その状況によって違うと思うので、そうしたサポー

トというのは、今後、市としては考えていかれる考えがあるのでしょうか、教えてください。

◆市長

その議論を行政内部ではしております。ただ、これは主観なんですね。その人その人の主観によります。客観的なガイドラインというものはあっても、その人の主観次第で変わってしまいます。おそらく記者の、自分の立場に立ってみてもそうだろうというふうに思っております。非常に難しい問題だと私は考えております。

◆第一テレビ

一律でガイドラインというのは難しいかもしれないんですけども、そうしたことというのは、何かサポートみたいなものは、市として、もう今、始めているのか、それとも今後そういうことを考えていらっしゃるのか、教えていただけますか。

◆市長

やはり最終的には法に基づく決着ということになるかと思えます。誹謗中傷をした、されたという問題ですね。ですので、中傷を受けたという立場が深刻であるならば、私たちが、例えば、弁護士さんに相談をする体制を整えて人権を守るということも、これから検討していかなければいけないというふうに思えます。ただ、その法の決着の前にね、お互いのことを思いやった行動を、私とすると、市長として呼びかけていきたいと思っております。静岡市民はそういうことができる市民だと、私は信じています。

◆第一テレビ

ありがとうございます。

◆市長

全国的にも、もっとひどい例もたくさんあるんですよ。そういう中で悪戦苦闘しながらなんとか一定のモラルを守ってくれているのが、静岡市民だというふうに思っておりますので、ぜひ、そんな報道をお願いしたいなというふうに思えます。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いします。

◆読売新聞

読売新聞です。お願いします。クラスターが発生した工場が施設名を公表したことにつ

いてですが、会社のほうには市民から肯定的な声も届いているというふうに聞いております。市長として、今回公表したことで市民の反応、どういうふうに感じているのか、直接そういう声が市にきているのか、あるいは何か感じているところがあるのか、お願いいたします。

◆市長

公表してよかったというふうに企業の幹部社員の皆さんがおっしゃっているということは、私はほっとしております。私のところにも、いろんな反響が返ってきております。だから、それをご理解いただける市民を最大化して、誹謗中傷をする人を最小化するというためにはどうしたらいいのかというのが、これからの課題だろうと思っています。

◆読売新聞

今回公表したことについて、市民のほうからの、市民のほうはどういうふうに、肯定的に感じているかどうかとか、そういったことというのは、安心したという気持ちなのかどうか…

◆市長

やっぱり、今、第3波が全国的に取りざたされる中で、市民の皆さんがすごく不安に思っている、そういう状態、心理状態だと思います。そういった今の時期は、公表してくれてよかったという肯定的な反応のほうが多いです。

◆読売新聞

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では続きまして幹事社質問に移りたいと思います。毎日新聞さん、よろしく願いいたします。

◆毎日新聞

幹事社、毎日新聞です。質問2点ありまして、1点目が桜ヶ丘病院の移転についてです。新たな病院の移転候補地として、市側が提示した4案についてJCHOから返答があれば、その内容を教えてください。もし結論が出ていなければ、協議の進捗状況を教えていただきたいです。

◆市長

まさに今、協議を続けているところであります。返答があったら公表したいと思います。

◆毎日新聞

今のところ何も動いていないということでもいいですか。変わってない…

◆市長

いやいや、動いています、動いています。もうほんとに協議中です。協議を続けているところです。

◆毎日新聞

わかりました。2点目が、新型コロナウイルス対策についてです。

◆市長

はい、申し訳ない。どうぞ。

◆毎日新聞

川勝知事が2日の定例記者会見で、地域などを限定して飲食店などに時短営業を要請することもあり得るという認識を示しました。静岡市として、業種を指定しての時短要請についてはどのように考えていらっしゃいますか。

◆市長

この前の会見でも申し上げましたけれども、静岡市内で発生したクラスターのほとんどは感染防止が不十分だったという、一部の接待、カラオケを伴う飲食店だったというのをご承知の通りだと思いますけれども、飲食店全般で広く感染が拡大しているという状況ではないという認識を持っています。感染者が拡大してしまった場合には、エリア、業種を限定したり、営業時間の短縮要請ということも感染症対策と経済を両立していく上でやむを得ない判断だというふうには思いますが、なんとか静岡市内の感染を抑えて、そういった状況は回避していきたいと私は考えております。

現在、飲食店の従業員を対象にした感染症検査、この準備も進めております。縣市連携して、状況に合わせた対策を講じていきたいと思っております。

◆司会

よろしいですか。

◆毎日新聞

はい。

◆司会

では、ただ今のご質問につきまして追加で質問のある方はお願いをいたします。よろしいでしょうか。それでは、そのほか、各社さんからのご質問をお受けしたいと思います。テレビ静岡さん、お願いします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。よろしくお願いします。新型コロナの関連なんですけれども、保健部局を中心に職員の労働時間というものが長くなっていると推察されますが、一部報道では県のほうの職員では 23 人が 4 月から 10 月の間で過労死ラインを超えているという報道もありましたけれども、静岡市のほうでは、まず、この時間外労働 80 時間超えの職員というのは延べ何人いるのか、これ当局になるかと思いますが、まず教えていただきたいです。

◆市長

これは総務局長の指示の中で、先月以降ここに当たる職員の増強を大幅に図っております。具体的には、まず保健福祉長寿局内の職員を中心にして応援体制を、そこに、コロナ対策に組み対応しておりますけれども、来週以降はこの局以外、保健福祉長寿局以外からも追加で職員を配置した上で、コロナウイルスとインフルエンザの流行に備える職員体制を作ってまいりたいと思っています。おっしゃる通り激務なんですよ。かなり厳しい、身体的なことだけではなく、心理的なストレスもあるでしょうから、それに配慮して健康を管理するスタッフの下支えということも対応しておりますし、過重労働による健康障害防止対策として、長時間勤務の職員にはいつでも産業医の先生が面会に応じる体制を整えております。もし、総務局長から補足があったら。

◆総務局長

総務局長の吉井と申します。今、時間外勤務の時間数のお話がありましたけれども、4 月から 10 月、11 月がまだ集計できていませんので、4 月から 10 月までの中で、対象となる、今、保健所というお話がありましたけれど、保健所の保健予防課と、それから、今かなり業務が集中しております保健衛生医療課、この二つを対象にしますと、80 時間を超えている者が 8 人、それから 100 時間を超えている者が 3 人ということで、この両方の数、全体の人数が 41 人ですので、その中の、その人数が 80 時間あるいは 100 時間を超えているという状況になっております。以上です。

◆テレビ静岡

ありがとうございます。市長に 1 点、今この数字を把握されて、市長としてはどのような所感というか、思い、受け止めでしょうか。

◆市長

職員が市民のセーフティネットの最後の砦ですので、ぎりぎりのところで、なんとか公務員としての職務を果たしてほしいというふうに願っています。

◆テレビ静岡

ありがとうございます。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。毎日新聞さん、お願いします。

◆毎日新聞

すいません、先ほど幹事社質問で聞き忘れてしまっていて、新型コロナの対策についてなんですけれども、12月は忘年会のキャンセルが相次いで、飲食店からは経済的な打撃を懸念する声がたくさん上がっていると思います。

市長がかねてから訴えてらっしゃる経済とコロナ対策両立のための具体的な施策があれば教えてください。

◆市長

7日の会見で発表しました飲食店対策、これを力強くスピード感を持って取り組んでいくということに尽きると思います。まずは、安全安心なお店の環境を作るという意味で、宣言ステッカーの活用強化、あるいは保健所の職員を中心とした飲食店の臨店活動を強めていきます。また、社会経済活動の面では、ピンチの事業者に対して経営相談に乗るということによって不安を解消していきたいと思っておりますし、売り上げの減少とか、経済的な打撃を受けた事業者に対応するために、資金繰りについての相談にも乗っていきたくと思っています。これも国の制度もありますし、県の制度もありますし、そういった現状をきちっと、わかりやすくお伝えをして、少しでも心理的な負担を取り除いていきたいと思っています。市民に寄り添った、事業者の皆さんも市民ですので、そういう経済的なアドバイスもしていきたいなと思っています。

また、積極的には、これがバランスなんですけれども、直接的な消費の喚起というものを促していかなければなりません。そこで、今月の12日から来月の11日までの1カ月間を予定しておりますけれども、PayPay株式会社と連携して、「エール静岡！対象のお店で最大20%戻ってくるキャンペーン」という下支えの事業を実施していきます。それを活用して、少しでも売り上げを上げていただければうれしいなと思っています。これは飲食店だけじゃなくて、記者がたくさん行くブティックであるとか、雑貨屋さんとか、そういうすべての小売店を対象に、この20%戻ってくるキャンペーンを展開していき

たいと思います。ぜひご活用いただきたいなと思います。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。時事通信さん、お願いします。

◆時事通信

時事通信です。先日、国のほうで第3次の補正予算の追加経済対策について決定したということで、GoToトラベルについてなんですけれども、来年6月末までをめぐりに延長するという事なんです、市長もおっしゃっている社会経済活動の維持ということも必要だと思うんですけれども、一方で感染拡大のリスクとかも高まるのかなと思うんですが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

◆市長

今、静岡市内の消費喚起の話が、まさに先ほどの毎日新聞さんの記者さんの問題提起だったと思いますけれど、全国的にはそこが今一番の話題になっていると思いますね。北海道、東京、そして、静岡とずいぶん状況は違います。これは国の政策に注視をしながら、私どもができるコントロールをしていきたいなというふうに思っています。それよりも、あの3次の補正の中で、今後、経済支援を事業者の方々にしていく場合の備えとしての1.5兆円を積み増してくれた、国が交付金として、それは私たち全国市長会の執行部として、ずっと要望してきたことですので、それを今回さらに1.5兆円積み増していただいて、将来これはもっとひどい状況になって現金給付とかしなければならぬようなときに、この補正予算を確保してくれたというのは、大変ありがたいなというふうに思っています。以上です。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。SBSさん、お願いします。

◆SBS

SBSです。8日から、先ほど市長もおっしゃっていたように葵区を中心とした飲食店の検査の受け付けが始まっていると思うんですけれども、昨日の時点で1,000店舗対象のうち申し込みがあったのが41件ということを知ったんですが、この申し込みの現在の数字については、どのように受け止めていらっしゃいますか。

◆市長

少ないですね。もっと積極的に活用してほしいなと思いますし、また、使い勝手が悪いんだったら改善をしていく必要もあるんじゃないかなというふうに思っています。伊東

市もかなり厳しい状況なんですけれども、同じような施策、あそこは保健所がありませんので県がやっておりますけれども、県はどんなふうにしてそれをやったのかと、スピード感を持ってやらなきゃいけないし、そのあたりのところも、今、情報収集をするように指示をしているところであります。

◆SBS

今、限定された地域で、今、申し込みを受け付けていると思うんですけれども、その葵区の、今、対象となっている地域以外の方で受けたいってという声が上がっているようなんですけれども、今後、地域を拡大したりする予定はありますか。

◆市長

今、そういう議論はしておりません。問題提起として受け止めたいと思います。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは以上で、市長の定例記者会見を終わらせていただきます。次回は12月24日、木曜日、午前11時からとなります。本日はありがとうございました。